

大きな憧れをいだく大草っ子



大草小学校だより 「ココロオドル」

第15号 平成30年12月20日(木) 校長 有谷孝彦

学校づくりの合言葉 「常笑大草！」

自信 (Confidence) 挑戦 (Challenge) 思いやり (Consideration)



駆け抜ける

「ジングルベル」や「きよしこの夜」が鳴り響いたかと思うと「お正月」の歌が聞こえてきます。この時期は、進む方向の軌道修正をしたり、新たな目標を立てたりする節目にあたりますが、私は神妙に自分を振り返ると、考え込んで立ち止まってしまいそうなので、「駆け抜ける」ように心がけています。決してクリスマスやお正月が嫌いなのではなく、心の浮き沈



みを少なくしたいだけなのかなあと自己分析しております。しかし、やはり1年の締めくくりですので、子どもたちには、4月に立てた目標の達成状況を振り返らせ、3学期には達成できるように指導します。学校としても、「常笑大草！」(自信 挑戦 思いやり)が達成できたか評価に入ります。先日お配りした学校評価をもとに1年間の振り返りと次年度の計画を進めて参ります。



花屋の爺さん

金子みすゞ

花屋の爺さん

花売りに、

お花は町でみな売れた。

花屋の爺さん

さびしいな、

育てたお花がみな売れた。

花屋の爺さん

日が暮れりゃ、

ぽつり一人で小舎のなか。

花屋の爺さん

夢に見る、

売ったお花のしやわせを。



「ハチドリの一とすく」

10年ほど前に有名になった「ハチドリの一とすく」というお話があります。このお話は、南アメリカのアンデス地方に住む先住民に伝わるお話だそうです。

森が燃えていました。

森の生きものたちはわれ先にと逃げていきました。

でもクリキンディという名のハチドリだけは いったりきたり

くちばしで水のすくを一滴ずつ運んでは

火の上に落としていきます。

動物たちがそれを見て

「そんなことをして いったい何になるんだ」

とって笑います。

クリキンディは こう答えました。

「私は 私にできることをしているだけ」



とても短いお話です。その後どうなったかは書いてありません。ハチドリという鳥は、大きさが10cmくらいですので、雀と同じくらいの大きさです。とても美しい鳥で、空中に制して長いくちばしで花の蜜を吸います。英語では、「ハミングバード」と呼ばれ、Gibsonのギターの名前にもなっています。

そのハチドリがくちばしに水を含んで運んでも、水は一滴しかありません。ですから、たった一羽では森の火事を消すことはできません。それでもクリキンディは火事を消すために「私にできることをしているだけ」と言って、ひたすら水を運んでいるのです。

子育てや教育は、時にはその一言で激変し改善することもあります。そのほとんどが、「ポトリポトリ」落とされる水のひとすくなのではないかと思います。私たち大人は、「今、自分にできること」に全力を傾注し、少しの変化を見逃さない構えが必要だと考えます。

☆2018年はあっという間でした。一日一日を大切に過ごしたいものです。

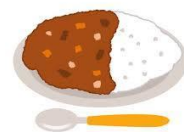


☆1月の主な行事予定(再掲) 3のつく日は「えがおの日」

8日(火) 第3学期始業式

15日(火) ダービースクールとの交流

17日(木) 給食試食会(カレーライス^^)



学校の様子等については、大草小学校HPにも掲載しておりますので御覧ください。